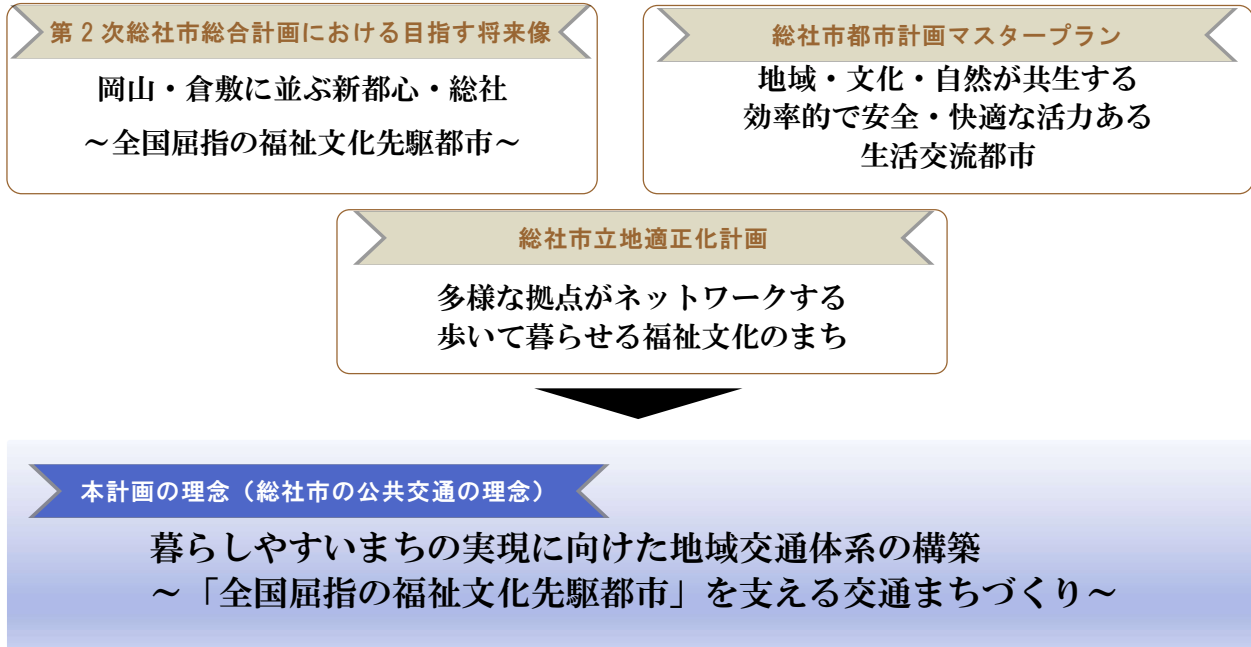


第6章 本計画の理念と目標

1. 本計画における理念の設定

本計画の上位計画である「第2次総社市総合計画」の目指す将来像、関連計画である「総社市都市計画マスタープラン」の都市づくりのテーマ、「総社市立地適正化計画」の基本方針（多様な拠点がネットワークする歩いて暮らせる福祉文化のまち）、そして前頁で整理した公共交通をめぐる本市の課題を踏まえ、本計画の理念を次のとおり設定しました。



2. 本計画における目標の設定

本市における公共交通の課題解決と将来像の実現に向け、本計画の目標を次のとおり設定しました。

目標
1

将来にわたり、安心快適に移動できる！

～各鉄道駅への二次交通の充実による安心・快適な移動の確保～

本市は県内4番目の人口規模を誇り、また人口増加率も県内第2位の水準にありますが、今後30年間で本市の人口は6.7万人から6.3万人へ減少すると予想されています。また、高齢化率も令和27年には32.7%まで上昇すると予想されており、アンケート結果では多くの方が高齢になった際の移動に不安を感じています。

そして、「総社市立地適正化計画」においては、こうした将来の人口減少・少子高齢化に対応し、中心部への居住誘導を推進するため、都市機能誘導区域、居住誘導区域が指定されます。

そこで、本計画においても同計画や今後策定予定の「LRT基本計画」との整合を図り、「全国屈指の福祉文化先駆都市」の実現に向けて、市内バス・タクシー事業者と連携し、**将来にわたる拠点間の移動手段の確保や各鉄道駅への二次交通の充実を目指すとともに、中心部では安心・快適な移動空間の整備を行うことでにぎわいのある魅力的なまちづくりの礎**とします。

目標
2

市内外への移動を充実・強化する！

～本市の基幹鉄道の強化による移動性向上と交流拡大～

本市では倉敷市、岡山市とのつながりが非常に強い状況にある中、総社市、岡山市、JR西日本は岡山と総社を結ぶ**JR桃太郎線（20.4km）のLRT化の枠組みについて合意し、これと併せて運行本数の増加や新駅の設置が検討されています。そして、この計画が実現することで、総社～岡山間のアクセスが向上することに加え、沿線のまちづくりによる地域の活性化や観光客の増加による交流拡大が期待されます。**

また、**生活圏が隣接する岡山市や倉敷市となる地域において、市域を越えた交通体系構築について協議を行っていくとともに、井原線の利用促進による西方面からの交流拡大を図っていきます。**

目標
3

誰もが外出しやすい環境を整備する！

～ユニバーサルデザイン化による使いやすさ向上と利用促進～

移動手段に関する市民の満足度をみると、鉄道では「駅周辺の駐輪場・駐車場」、バス路線では「路線・ダイヤに関する情報」などにおいて満足度が低く、また雪舟くんでは「利用したいときに利用できない」や「登録手続きが煩わしい」等の声が挙がっています。

どんなに鉄道やバス、雪舟くんを拡充・強化しても、駅やバス停、車両、情報、運行システム等が使いやすいものでなければその効果は十分に発揮されません。今後の本格的な高齢社会の到来や障がいのある方々の利用を考慮し、これら**施設・情報・システムのバリアフリー化を含めたユニバーサルデザイン化**を図っていきます。

また、鉄道、路線バス、雪舟くんといった身近な公共交通が全ての人にとって使いやすく、誰もが外出しやすい移動手段となるとともにより多くの人に利用してもらえよう、**LRT化による新駅はもとより既存駅周辺の駐車場・駐輪場の整備や施設案内表示、公共交通運行ダイヤ・乗り場情報の充実、リアルタイム運行情報・所要時間の見える化**などきめ細かいニーズに対応したユニバーサルデザイン化を目指します。

目標
4

観光客が楽しんで観光地を周遊することができる！

～レンタサイクルの充実や総社流観光二次交通の導入による観光文化の振興～

市内には鬼ノ城や備中国分寺、宝福寺など見所ある観光文化施設が点在していますが、ルートや運行本数を考えたときに路線バスでのアクセスが非常に悪く、また雪舟くんは市民以外が利用できないため、公共交通を利用して観光文化施設にアクセスすることが困難な状況にあります。

他方で、市内には「吉備路自転車道」が指定されており、沿線に点在する史跡や古墳、自然を楽しみながら、心地よくサイクリングを行う資源も整っています。

そこで、**市内バス・タクシー事業者や観光関連団体等との連携により、レンタサイクルの充実や、JR「観光タクン」等観光タクシーの充実を含めた総社流の新たな観光二次交通システム導入により、来訪者の自由な周遊を確保**し、観光文化振興による交流促進と地域活性化を目指します。

目標
5

みんなが主体となって考え、改善する！

～市民・交通事業者・行政の連携による公共交通の継続的改善～

現在、日本各地において、利用者の減少によるサービス低下が更なる利用者減少を招く、いわゆる「公共交通の負のスパイラル」が発生しており、これは本市においても決して人ごとではありません。そのため、本市では「雪舟くん」を導入しておりますが、将来にわたり効率的な公共交通を維持・存続させるためには、**市民・交通事業者・民間企業・行政がともに意見を出し合い、三方一両損の精神からそれぞれの好循環に繋げることができるよう協働で公共交通の再生・活性化に取り組む**ことが重要です。

そこで、本計画においては、市民・交通事業者・行政が協力して計画の策定を行い、施策を実施し、その評価と改善により市内の公共交通を継続的、発展的に向上させていく仕組み、**例えば住民が主体となって買い物や病院への移動の支援を行うなどの仕組みを構築**することで、**持続可能な公共交通の実現**を目指します。

目標
6

中心部の魅力UPにより、健康づくりや交通安全にもつなげる！

～幹線道路や歩行者空間の整備により地域の経済活動や健康づくり、交通安全を支える～

魅力的なまちづくりと公共交通の利用を連動させるため、商業施設等と連携し、公共交通利用者向けの特典・サービスを拡充していきます。また、道路ネットワークの構築による都市内移動の円滑化や中心市街地の渋滞緩和、高齢者や障がい者の方が利用されている（電動）車いす、環境負荷の低減や健康増進につながる移動手段として利用が増加している自転車等が利用しやすい**安心・安全な交通環境の確保に向けた幹線道路・歩行空間の整備を推進**します。さらに、健康づくりにつながるウォーキングコースなどウォーカブルな空間整備にも努めます。

さらに、近い将来、自動運転技術の本格的な実用化により新たな交通サービスの創出が期待されます。今後、本市においても、**自動運転の公共交通への導入やカーシェアリングといった交通施策について、将来的な取り組みとして関係機関と連携し、検討**を進めていきます。